

急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会

目 次

平成 23 年 度 報 告 書

- I. 緒 言
- II. 目 的
- III. 協議日程および概略
- IV. 協 議 結 果
- V. 総 括

急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会

(平成 23 年度)

平成 23 年度 報告書

広島県地域保健対策協議会 急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会

委員長 木原 康樹

I. 緒 言

平成 18 年 6 月 21 日、良質な医療を提供する体制の確立を図るため医療法の一部を改正する法律が公布され、この中で医療計画の記載事項として新たに、がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病の 4 疾病と、救急医療、災害医療、へき地医療、周産期医療、小児医療の 5 事業が追加された。これを受け、平成 20 年 3 月に改正された広島県保健医療計画においては、4 疾病 5 事業に係る医療連携体制の構築に向けた取り組みについて、疾病・事業ごとの医療機関の機能を示した「医療体制」、役割に応じたそれぞれの機能を担う具体的な「医療機関の名称」を明確にした上で、相互の連携をしていくこととなった。

このうち、急性心筋梗塞の地域連携推進については、広島県地域保健対策協議会において、平成 20 年度急性心筋梗塞医療連携推進ワーキンググループが組織され、3 回の協議を経てその概要が形成された。平成 21 年度からは、WG が医療連携推進専門委員会に組織として昇格し、広島大学循環器内科学教授 木原康樹が委員長に就任した。平成 21 年度では、心筋梗塞の急性期ならびに慢性期を地域において支える医療機関を急性期救急医療、急性期リハビリテーション、回復期リハビリテーション、慢性期再発予防の 4 群に分割し、それぞれが備えるべき機能要件を指定したうえで選定し、公表した。平成 22 年度には、これら 4 機能医療機関が有効にその役割を果たすためには、医療連携の要となる「急性心筋梗塞地域連携パス」の必要性が認識されたため、その詳細作成についてのワーキンググループを立ち上げ、検討を進めた。平成 23 年度においては、同 WG で提案された「急性心筋梗塞地域連携パス手帳」を試用のうえ校正を繰り返し公表・出版を完了した。

II. 目 的

広島県地域保健対策協議会急性心筋梗塞医療連携推進専門委員会は、平成 20 年度ワーキンググループの答申を継承し 4 疾病 5 事業の中で急性心筋梗塞につき、地域において切れ目のない医療の提供を実現し、かつ良質・適切な医療を効率的に提供するための医療体制を構築するべく協議を行い、提言ならびに地域医療連携を図るための活動を行うことを具体化した。本年度の特別委員会は同専門委員会の成果を補足・検証・確認することを目的とした。

III. 協議日程および概略

第 1 回急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会
(平成 23 年 11 月 17 日)

- ・急性心筋梗塞手帳（地域連携パス）の使用状況について
- ・急性心筋梗塞手帳（地域連携パス）の普及について
- ・心不全地域連携サポートチーム体制の構築について

急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会主催心筋梗塞地域連携パス研修会
(平成 24 年 2 月 9 日)

- ・心筋梗塞委員会の活動報告とパス作成の経緯
- ・心筋梗塞パスの特徴 疾病管理の概念に基づく医療構築ツール
- ・試用経験について現場からの報告
- ・パス展開・疾病管理の寄港地としての「心臓いきいきセンター」事業

第 2 回急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会
(平成 24 年 3 月 22 日)

- ・平成 23 年度委員会の活動について総括
- ・急性心筋梗塞手帳の改訂確認と最終承認

IV. 協 議 結 果

1. 「急性心筋梗塞連携パス手帳」(案)の試用とその評価について

昨年度の連携パスの試用から浮かび上がった問題点や意見をもとに委員会協議を重ね、以下の点が手帳の骨子として盛り込まれた。

- 1) 患者にとって「わたしの手帳」と呼ばれるものとする事、すなわち手帳の主体が患者であることを明示すること。
- 2) 患者自身が手元に保管し、各レベルの診療・リハビリ機関の受診に際して持参・持ち運びが簡便であること。
- 3) 患者の医療や介護など多方面の医療責任者を誰もが一目瞭然で確認できるものであること。
- 4) 初期急性期の診断・治療内容が非医療者にも理解される記載であること。
- 5) 慢性期心筋梗塞患者の評価項目を最低限網羅していること。
- 6) 主治医が記載に際して負担を感じない程度の内容に止めること。
- 7) 患者の栄養管理・運動許容レベルなど、日常生活の指標を盛り込み、患者自身も活用できるものであること。患者の医療・介護を担当する多職種のだれもがコメントや気づきを書き込めること。すなわち患者自身の疾病管理を進める仕組みを盛り込むこと。
- 8) 平成 23 年度より広島県地域医療再生計画「心臓いきいきセンター」(心不全地域連携サポートチーム体制)の中にあつて、急性期治療施設、回復期リハビリテーション施設、慢性期予防施設、さらには自宅や介護施設をシームレスに繋ぐ連携ツールとして位置付けること。

以上に則して全面的な改定を施した。

2. 第 1 回急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会(平成 23 年 11 月 17 日)

上記趣旨により改定された「パス手帳」のモデル地区(尾道地区および備北地区)での試用状況と細部に亘る問題点、整合性、記載の容易さなどを議論し、改訂作業を終了した。また、心不全地域連携サポートチーム体制の構築においてのハブ機能をもたせるために、「パス手帳」の表題を、「心筋梗塞・心不全手帳：地域連携パス」に改めた。そこには陳旧性心筋梗塞はすなわち心不全ないしは心不全予備軍

(AHA/ACCにおける心不全クラスBないしはC)であるとの認識を込めた。またパスとしてのアウトカム：「1年間再発と再入院がないこと」を明示するため、「パス手帳」の巻末に患者に渡す「修了証」を印刷した。これによりアウトカムの達成を患者自身と共有できる仕組みを盛り込んだ。

3. 急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会主催心筋梗塞地域連携パス研修会(平成 24 年 2 月 9 日)

完成した「心筋梗塞・心不全手帳：地域連携パス」を披露し、その機能と活用方法を広告するために、医師会関係者に呼び掛け県医師会館にて「心筋梗塞地域連携パス研修会」を開催した。約 150 名と予想以上の医療関係者の参加を得た。そこでは、堀江正憲常任理事の司会の下に、

- ・心筋梗塞委員会の活動報告とパス作成の経緯(木原康樹)
- ・心筋梗塞パスの特徴 疾病管理の概念に基づく医療構築ツール(森山美知子)
- ・試用経験について現場からの報告(森島信行、沖野貴穂、川村美香)
- ・パス展開・疾病管理の寄港地としての「心臓いきいきセンター」事業(渡辺慎一)

が講演し、活発な質疑応答を行った。

4. 第 2 回急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会(平成 24 年 3 月 22 日)

平成 23 年度委員会の活動について総括を行うとともに「心筋梗塞・心不全手帳：地域連携パス」の改訂確認と最終承認を行った。A5 版で表裏表紙をソフトカバー・カラー印刷とし 10,000 部の本印刷と心筋梗塞地域医療連携諸施設への配布を決定・施行した。

V. 総 括

4 疾病 5 事業のうち、急性心筋梗塞に関する協議として広島県地域保健対策協議会の平成 20 年度急性心筋梗塞医療連携推進ワーキンググループを継続して平成 21 年度から 22 年度に活動した急性心筋梗塞医療連携推進専門委員会は、地域での機能別医療連携を推進するために、急性心筋梗塞地域連携クリティカルパスを作成・普及していくことが重要であると考え、急性心筋梗塞地域連携クリティカルパス作成 WG を中心にその内容を策定した。パス(案)の尾道地区・備北地区での試用から、医療・介護など多職種が理解、使用できるとともに、患者が主人

公となって自らの疾病管理意欲を高める仕組みが重要であることが認識された。そのため、患者にとって「わたしの手帳」と呼べる国内でも例を見ない斬新で改革的な「パス手帳」を完成させることができた。この「パス手帳」の運用を実現することが平成23年度本特別委員会の主たる目的であった。「パス」であるから、明確なアウトカム「1年間再発と再入院がないこと」を宣言しており、また同時に「わたしの手帳」であるから、患者の手元において患者が自宅や介護施設において自己管理の一環として自ら記載しそれに介護士やケースワーカーが助言を返すことができるよう構成した。またこの手帳を関係医療機関に持参することにより、かかりつけ医（再発予防施設）や専門医療機関（急性期医療施設）あるいは回復期リハビリテーション施設の専門医あるいはコメディカルも広くこれを参照したり、さらに専門的アドバイスを記載したりすることが可能となっ

たと考える。同時に、平成23年度より始まった広島県地域医療再生計画「心臓いきいきセンター」（心不全地域連携サポートチーム体制）の中にあつて、急性期治療施設、回復期リハビリテーション施設（心臓いきいきセンター）、慢性期予防施設、さらには自宅や介護施設をシームレスに繋ぐ連携ツールとして位置付けることが可能と考え、対象患者を心筋梗塞に絞らず、広く心不全患者あるいはその予備軍が使用できる構成にした。すなわち心筋梗塞のみならず今後高齢化の進行とともに大きな問題となる慢性心不全全般を管下した役割を託した。これらの利用を通して患者の主体的モチベーションが変化することにより医療連携も進み、広島県が疾病管理で全国に先駆け、心筋梗塞・心不全の再発率の低い地域医療を推進できることを本委員会は強く確信するに至り本年度の活動を終了した。

心筋梗塞・心不全手帳

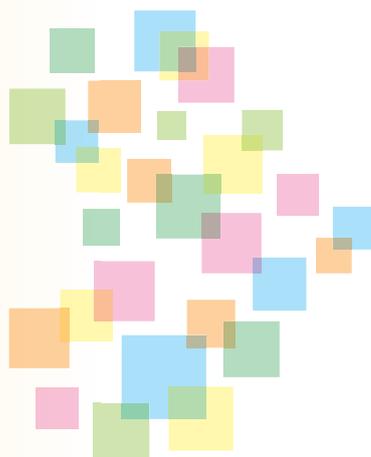
地域連携パス



- 介護・福祉サービス…………… 2
- 私の心臓の血管の詰まった場所・病気の部位 …… 3
- 治療の方法と治療部位…………… 3
- 障害をおこした心臓の領域…………… 3
- 私の入院中の経過…………… 3
- 私の心血管危険因子…………… 4
- 私が守ること…………… 5
- 私の薬…………… 5
- 急性心筋梗塞後・心不全 地域連携パス…………… 6
- 毎日のチェック表……………10

心筋梗塞・心不全手帳

地域連携パス



広島県地域保健対策協議会
(急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会)

●私の心血管危険因子

〈病 気〉

心不全 (EF %・CTR %))
 高血圧症)
 脂質異常症 (高コレステロール血症)
 不整脈)
 慢性呼吸不全)
 腎臓病 (Cr・GFR)
 透析 (腹膜透析・ 血液透析)
 糖尿病 (血糖降下薬・ インスリン注射)
 甲状腺機能亢進症)
 脂肪肝/アルコール性肝障害)
 その他 ()

〈生活習慣〉

過 食)
 多量飲酒)
 肥 満 (BMI))
 運動不足 ●標準体重の計算式= (身長(m))²×22)
 水分不足)
 不規則な食事)
 ストレス)
 過 労)
 便 秘)
 喫 煙 (1日 本))
 その他 ()

●私を守ること

塩 分 (1日 g))
 エネルギー摂取量 (1日 kcal))
 たんぱく質摂取量 (1日 g))
 お酒を控える ())
 禁 煙 (禁煙外来))
 運 動 ・リハビリテーション ())
 ・運動時心拍数上限 (回/分)
 ストレス管理)
 足の手入れ (フットケア))
 自己血糖測定 ())
 血圧測定 (毎日 朝 ・ 晩))
 体重測定 (毎日 朝 ・ 晩))
 その他 ())

●私の薬

血圧を下げる薬 ())
 コレステロールを下げる薬 ())
 血を固まりにくくする薬 ())
 尿を増やし体液を減らす薬 ())
 不整脈をおさえる薬 ())
 血糖値を下げる薬 ())
 インスリン注射 ())
 その他 ())

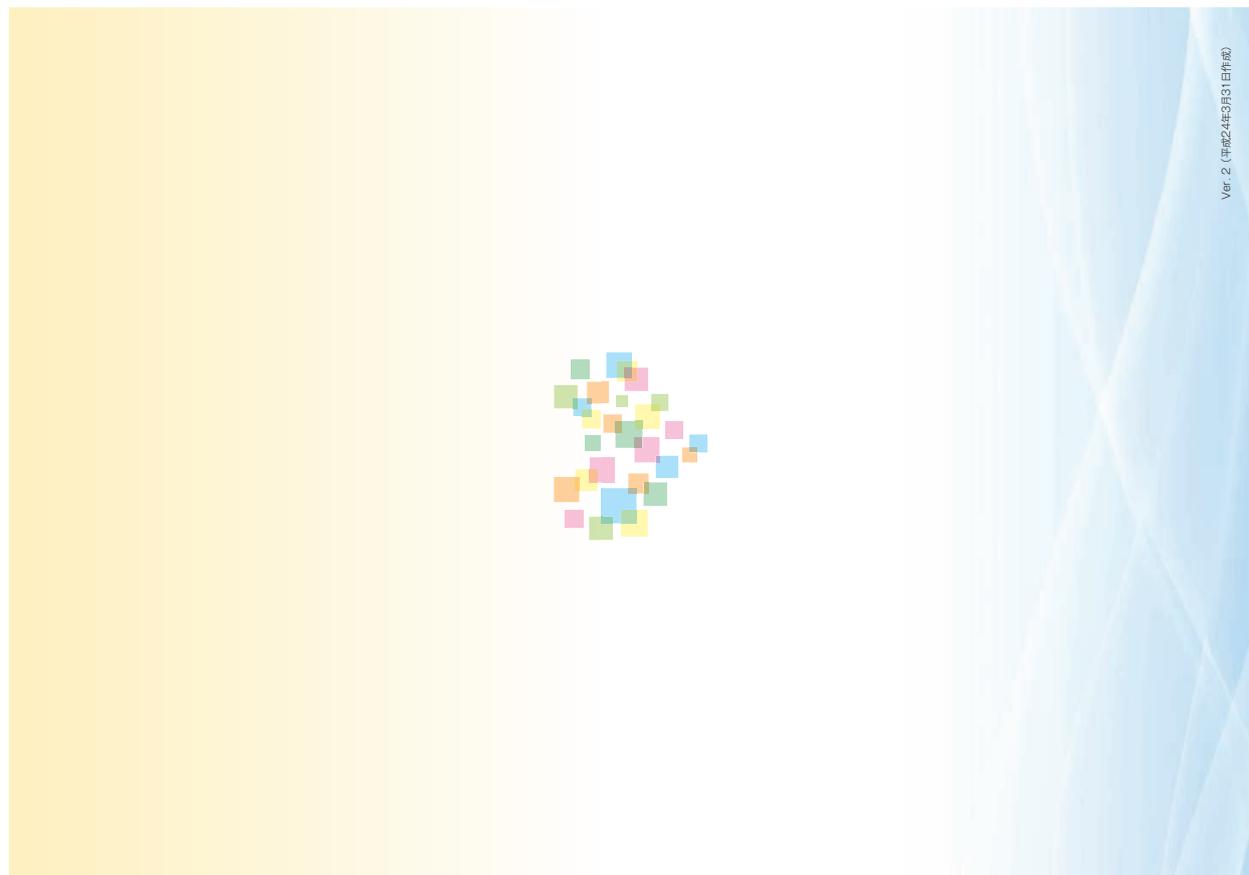
●毎日のチェック表

	今月の目標：				タ				・むくみ ・息切れ ・血糖値 など
	体重 (kg)	朝 血圧 (mmHg)	脈 拍/分	服薬	血圧 (mmHg)	脈 拍/分	服薬	服薬	
1日		/			/				
2日		/			/				
3日		/			/				
4日		/			/				
5日		/			/				
6日		/			/				
7日		/			/				
8日		/			/				
9日		/			/				
10日		/			/				
11日		/			/				
12日		/			/				
13日		/			/				
14日		/			/				
15日		/			/				
16日		/			/				

(年 月)

<p>■私が見つかったこと／■心配なことなど</p>	<p>■医療スタッフからのコメント</p>
----------------------------	-----------------------

今月のあまった薬：



Ver. 2 (平成24年3月31日作成)

修了証

様

あなたは この一年間 病気の
再発や再入院をされることなく
無事に過ごされました
ここにそれを証し あなたの
努力を讃えます

年 月 日

主治医

担当者

■本手帳の請求先：広島県地域保健対策協議会事務局
〒733-8540 広島市西区観音本町1-1-1
電話：082-232-7211 E-mail: citakyo@hiroshimamed.or.jp

広島県地域保健対策協議会 急性心筋梗塞医療体制検討特別委員会

委員長	木原 康樹	広島大学大学院医歯薬学総合研究科
委員	井上 一郎	広島市立広島市民病院
	岩橋 慶美	広島市安佐南区厚生部
	宇津宮仁志	広島県健康福祉局
	榎野 新	中国労災病院
	岡本 光師	県立広島病院
	川本 俊治	呉医療センター
	吉川 正哉	広島県医師会
	才野原照子	広島県看護協会
	田中 幸一	市立三次中央病院
	土手 慶五	広島市立安佐市民病院
	中濱 一	福山市民病院
	林 拓男	公立みつぎ総合病院
	檜谷 義美	広島県医師会
	藤井 隆	JA 広島総合病院
	堀江 正憲	広島県医師会
	森島 信行	JA 尾道総合病院
	森山美知子	広島大学大学院保健学研究科
	柳原 薫	東広島医療センター
	安信 祐治	三次地区医療センター